



データから見る正常性バイアスの現状とその対策

正常性バイアスを解くことによってどれだけの人が助かるのか

災害における 「正常性バイアス」とは？

正常性バイアスとは

「自分にとって都合の悪いことは、起こらないだろう」と思い込んでしまう心のはたらきのことです。

災害時の危険な心理

地震や津波が起きても「たいしたことはない」「自分は大丈夫」と考え、避難を遅らせてしまいます。

よくある具体例

「強い揺れを感じても、もう終わったし平気だろうと外に出ない」「避難情報が出ても、うちは大丈夫と思って逃げない」

重要なポイント

災害時は「大げさかな？」と思っても、早めに避難することが命を守ることに直結します。



【問題提起】 正常性バイアスによる避難遅れのデータ

東日本大震災後の住民調査データから、深刻な現状が浮き彫りになっています。

45%

津波を考えなかった

揺れ直後に「津波を考えなかった/来ないと思った」

10.8%

過去の経験から判断

過去の経験から「津波は来ない」と判断

約40%

呼びかけを信じなかった

呼びかけを信じなかった高齢者層

37.4%

避難が遅れた

避難せず / 津波到達後に避難を開始

⊗ **結論**：正常性バイアスのせいで「3人に1人以上が避難を遅らせてしまう」という現実があります。

【解決策】

「具体的な場所名」を伴う通知が命を救う

✗ 従来の抽象的な通知

「津波が来ています」

→ まだ遠くの出来事に感じてしまい、人が動かない可能性が高い。

○ 当社のIoTシステムによる通知

「〇〇公民館まで津波が到達しています」

なぜ効果的なのか？

「自分が知っている・行ったことのある場所」が脅威にさらされていると知ること、直感的な危機理解につながります。正常性バイアスを「現実の光景」として打ち破り、即避難を促す効果があります。



【効果予測】 どれだけの命が助かるのか

過去の調査データを基に、このシステムで「正常性バイアスにより避難が遅れる人（3人に1人以上）」を確実に減らすことができます。

具体的なシミュレーション

仮に住民1000人中、300人が逃げ遅れるリスクがあるとします。

当社システムの効果

当社のシステムによって、その半数を早期避難に導くだけでも「**150人の命**」を確実に救えるのです。

導入の容易さと今後の展開



最適な設置場所

公民館、コンビニ、ガソリンスタンド、役所など「地域住民に必ず知られている場所（ランドマーク）」に設置します。



低い導入ハードル

既存の施設への後付け設置が可能で、自治体や店舗の運用負担は最小限で済みます。



相乗効果

住民説明会やハザードマップと組み合わせることで、地域全体の防災啓発効果が倍増します。